

第74回日本体力医学会大会のご案内（第1報）

第74回日本体力医学会大会を下記の通り茨城県つくば市において開催致します。

全国から多くの会員の皆さまのご参加を心からお待ちしております。

なお、学会の最新情報は第74回大会ホームページ（<https://tairyoku74.jp/>）をご覧ください。学会の最新情報は、順次アップしていきます。

記

1. 会 期：平成31年9月19日(木)、20日(金)、21日(土)
2. 会 場：つくば国際会議場
(茨城県つくば市竹園2-20-3)
3. 大 会 長：田中 喜代次
(筑波大学 名誉教授)
4. 大会事務局：筑波大学総合研究棟D内
第74回日本体力医学会大会事務局
事務局長 前田 清司（筑波大学体育系 教授）
〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1
運営事務局：株式会社JTB 茨城南支店内
第74回日本体力医学会大会運営デスク
〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-2-4 第2・ISSEIビル302
TEL：029-860-2872 FAX：029-854-1664
E-mail：mice-tsukuba@jtb.com
5. 大会プログラム（予定）
 - (1) 大会長講演
 - (2) 特別講演
 - (3) 教育講演
 - (4) シンポジウム
 - (5) 国際セッション
 - (6) ワークショップ
 - (7) 一般研究発表（口演・ポスター）
 - (8) 学会賞受賞講演
 - (9) ランチョンセミナー
 - (10) 県民・市民公開講座
 - (11) 持久走大会
 - (12) その他

注1) 一般研究発表、公募制プログラムの申し込み等については、第2報でお知らせします。

注2) 学会大会の一般研究発表への応募は学会員に限ります。共同研究者は学会員ではなくても構いません。会員および非会員の共同研究者が本大会に参加する場合は大会参加費が必要となります。

第73回日本体力医学会大会（福井）を終えて



第73回日本体力医学会大会大会長
福井工業大学スポーツ健康科学部学部長・主任教授

戎 利 光

この度は、各方面からのご支援を賜り、第73回日本体力医学会大会を開催することができました。心よりお礼を申し上げます。前回の日本体力医学会福井県大会は昭和43年（第22回大会）でしたので、福井県では50年ぶりの日本体力医学会大会でしたが、平成30年9月7日（金）～9日（日）の3日間にわたり、JR福井駅の東口再開発ビル（通称：アオッサ [AOSSA]）と西口再開発ビル（通称：ハピリン [Happiring]）を会場にして開催いたしました。

一般演題登録数が合計739演題になり、事前の大会参加申込者950名（一般会員635名、学生会員241名、一般非会員41名、学生非会員33名）に加えて、当日の大会参加者613名（一般会員及び非会員442名、学生会員及び非会員171名）、さらに、展示関係者約100名、スタッフ約80名、託児施設関係者約30名、招待者等を含めると、約1,800名規模の学会大会になりました。多くの方々にご出席をいただき、またサポートしていただいた関係者にも恵まれました。重ねてお礼を申し上げます。

開会式直後の大会長講演（"Effects of Continuous vs Intermittent Exercise on Fitness and Blood Lipids"）、初日夕刻の全米チアダンス選手権大会で5連覇を果たしたJETS（福井県立福井商業高等学校チアリーダークラブ）顧問五十嵐裕子先生による特別講演1（「高校の部活動で培う力 ～高い目標と夢の実現～」）をはじめ、奥田鉄人先生による特別講演2（「水泳のメディカルサポート」）、Dr. Mark Faghyによる教育講演1（"A Review of Inspiratory Muscle Training. When and why does it work?"）、山門浩太郎先生による教育講演2（「オーバーヘッドアスリートに対する関節鏡視下手術」）には、多くの方々にご出席をいただきました。

また、「本態性高血圧に対する運動指導および運動療法の実践と展望」、「運動と食欲：アスリートのためのコンディション調整に向けて」、「疫学マインドが魅せる研究計画のブラッシュアップ」、「スポーツ選手のコンディショニング」、「職域におけるヘルスプロモーション～「健康経営」に対する体力科学の役割とは～」、「チーム福井：福井県出身研究者が語るサルコペニア・フレイル」、「運動に伴う活性酸素産生の功罪」、「子どもの身体活動と認知・非認知能力～活動量低下に潜む諸問題軽減のために～」、「脳を守る至適運動・環境条件の探索」、「脳の健康づくりと運動－運動の効果発現メカニズムを考える－」、「画像診断機器の最新技術を体力医学へ応用する」、「健康科学を牽引する基礎細胞生物学の最前線」といった12ものシンポジウムを開催いたしました。

そのほか、「大塚スポーツ医・科学賞受賞講演」、「電気生理学的手法と3次元動作分析による素早い移動動作に伴う力の抜きに関する研究」、「運動・トレーニングにともなう中枢疲労問題に迫る新手法開発：メタボロミクスと毛髪コルチゾール測定法の導入」、「今求められている

健康スポーツ医と健康運動指導士の協働とは ～医療法42条施設調査から～」といった4企画のランチョンセミナーも開催いたしました。さらに、ワークショップ（「人の動きを支援するロボティクス・メカトロニクス機器の実用化を目指して」）、教育セッション（「JPFISMおよび体力科学の編集方針と論文執筆のポイント①」）、日本体力医学会プロジェクト研究の成果報告会（「プロジェクト研究成果報告会」）なども行い、そのほか数多くの一般演題やポスターによる発表もしていただきました。

「しあわせ元気な福井でつむぐ体力医学 ～QOL維持・向上の運動効果～」をテーマに、開催いたしました。体力医学に関して多方面の知識・情報交換の場が果たせたような気がいたしております。

最後になりますが、学会大会中、大会長控室にご挨拶にお越しくございましたほとんどの方々が、大会会場が駅に隣接していてとても便利であったこと、駅周辺でしたので近くに居酒屋等があり懇親会の会場探しに苦労しなかったことなどとともに、スムーズな大会運営についてもお褒めのお言葉をいただきました。第73回日本体力医学会大会の実行委員長山次俊介先生、事務局長山田孝禎先生をはじめ、実行委員の先生方、大会運営事務局の方々に心から感謝を申し上げます。有難うございました。

一般社団法人 日本体力医学会 定款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、一般社団法人日本体力医学会と称する。英語名は、The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicineと表示する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都文京区に置く。

2 この法人は、理事会の決議により、従たる事務所を必要な地に設置することができる。

(地方会)

第3条 この法人は、社員総会の議決を経て、地方会を置くことができる。

2 地方会の組織及び運営に関し必要な規定は、理事会において定める。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第4条 この法人は、日本国内外における体力ならびにスポーツ医科学に関する研究の進歩、発展を促進し、研究の連絡協力を図るとともに、その成果の活用をはかり、もって我が国の学術の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第5条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 体力医学に関する学術講演会などの開催
- (2) 機関誌その他の刊行物の発行
- (3) この法人が関係する内外の関連団体との連絡及び協力
- (4) 研修会の実施と称号の授与
- (5) 体力医学の振興ならびに、普及、啓発
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(学術講演会)

第6条 学術講演会は、毎年1回以上開いて会員の業績を発表する。

2 国民体育大会行事の一環として行われる学術講演会は、この法人の学会大会として、原則として国民体育大会の開催地で行われる。

第3章 会 員

(法人の構成員)

第7条 この法人の会員は、次の4種とする。

- (1) 正 会 員 体力医学に関する学識経験を有し、この法人の目的に賛同して入会した個人
- (2) 名 誉 会 員 この法人の発展に関して学術上の功績が特に著名な者で、理事会が推薦し社員総会で承認された個人
- (3) シニア会員 名誉会員に準ずる会員で、別に定める要件を満たした会員からの申請により理事会で承認された個人
- (4) 賛 助 会 員 この法人の事業を賛助するために入会した団体

2 この法人は、正会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般社団・財団法人法」という。）上の社員とする。

(入 会)

第8条 この法人の会員になろうとする者は、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。

(経費の負担)

第9条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、毎年、会員は、社員総会において別に定める額の会費を支払う義務を負う。ただし、名誉会員はこの限りでない。

2 既納の会費は、いかなる場合でも返還しない。

(任意退会)

第10条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除 名)

第11条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、社員総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき.
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき.
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき.

(会員資格の喪失)

第12条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第9条の支払義務を2年以上履行しなかったとき.
- (2) 総正会員が同意したとき.
- (3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき.

第4章 社員総会

(構成)

第13条 社員総会は、すべての正会員をもって構成する。

(権限)

第14条 社員総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 事業報告及び貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）等の承認
- (5) 会費の額
- (6) 理事会で付議したもの
- (7) 定款の変更
- (8) 解散及び残余財産の処分
- (9) その他社員総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第15条 社員総会は、定時社員総会として毎事業年度終了後3箇月以内に開催するほか、必要がある場合に臨時社員総会を開催する。

(招集)

第16条 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、理事長に対し、社員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、社員総会の招集を請求することができる。

(議長)

第17条 社員総会の議長は、理事長がこれにあたる。

(議決権)

第18条 社員総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

第19条 社員総会の決議は、出席した正会員の議決権の過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行う。
 - (1) 会員の除名
 - (2) 監事の解任
 - (3) 定款の変更
 - (4) 解散
 - (5) その他法令で定められた事項
- 3 社員総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面もしくは電磁的方法をもって議決権を行使し、又は他の正会員を代理人として議決権の行使を委任することができる。
- 4 前項の場合における第1項、第2項の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。

(議事録)

第20条 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

第5章 役員等

(役員を設置)

第21条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 20名以上25名以内
- (2) 監事 4名以内

- 2 理事のうち1名を理事長、2名を副理事長、1名を常務理事とする。
- 3 理事長を一般社団・財団法人法上の代表理事とし、副理事長及び常務理事を業務執行理事とする。

(役員を選任)

第22条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。

- 2 理事長、副理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 監事は、この法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。
- 4 役員を選出についての細則は別に定める。

(理事の職務及び権限)

第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 副理事長及び常務理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人の業務を分担執行し、理事長に事故があるときは、あらかじめ理事会で定めた順序により、その職務を代行する。
- 4 理事長、副理事長及び常務理事は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第24条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げない。

- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げない。
- 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 4 理事又は監事は、第21条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第26条 理事及び監事は、社員総会の決議によって解任することができる。

(役員報酬等)

第27条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、社員総会において定める総額の範囲内で、社員総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

第6章 理事会

(構成)

第28条 この法人に理事会を置く。

- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第29条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長、副理事長及び常務理事の選定及び解職
- (4) 社員総会に付議すべき事項の決定
- (5) 細則及び規則類の制定、同改廃の決定

(招集)

第30条 理事会は、理事長が招集する。

(議長)

第31条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

(決議)

第32条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定に関わらず、理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることができる理事の全員が書面・メール又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。但し、監事が異議を述べ

たときは、その限りではない。

(議事録)

- 第33条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第7章 評議員及び評議員会

(評議員)

- 第34条 この法人に、評議員を置く。
2 評議員は、理事会で選任する。
3 評議員は、評議員会を構成し、理事会の諮問に応じ、意見を述べることができる。
4 評議員の互選により、評議員会長を置く。

(評議員会)

- 第35条 評議員会は、毎事業年度に一回開催するほか、必要がある場合に開催する。
2 評議員会は、評議員会長が招集する。
3 評議員会の議長は、評議員会長とする。
4 評議員会は、理事会の諮問に応じ、第14条に定める社員総会の決議事項のほか、この法人の運営全般について意見を述べるができる。
5 評議員会の決議は、評議員現在数の過半数が出席し、出席した当該評議員の過半数をもって行う。

第8章 資産及び会計

(事業年度)

- 第36条 この法人の事業年度は、毎年8月1日に始まり翌年7月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

- 第37条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。
2 前項の書類については、主たる事務所（及び従たる事務所）に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。
3 第1項で承認された事業計画・収支予算は直近の社員総会に報告しなければならない。

(事業報告及び決算)

- 第38条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経て、定時社員総会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。
(1) 事業報告
(2) 事業報告の附属明細書
(3) 貸借対照表
(4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間（また、従たる事務所に3年間）備え置くものとする。
(1) 監査報告
(2) 理事及び監事の名簿

(剰余金の分配)

- 第39条 この法人は、剰余金の分配は行わない。

第9章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

- 第40条 この定款は、社員総会の決議によって変更することができる。

(解 散)

- 第41条 この法人は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

- 第42条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第10章 公告の方法

(公告の方法)

第43条 この法人の公告は、この法人の主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第11章 事務局

(事務局の設置等)

第44条 この法人の事務を処理するために、事務局を設置する。

- 2 事務局には、所要の職員を置く。
- 3 職員は、理事長が理事会の承認を得て任免する。
- 4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により理事長が別に定める。

第12章 補 則

(委 任)

第45条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関する事項は、理事会の決議により別に定める。ただし、この定款の施行についての細則は、理事会及び社員総会の決議を経て、別に定める。

附 則

- 1 この法人は、その主たる事務所の所在地において設立の登記をすることにより成立する。
- 2 任意団体の日本体力医学会の正会員、名誉会員、賛助会員であって、第7条に規定する正会員、賛助会員の資格を有する者及び団体は、第8条の規定にかかわらずこの法人成立の日にこの法人に入会したものとみなす。
- 3 任意団体の日本体力医学会の評議員は、この法人成立の日にこの法人の評議員に選任されたものとみなす。
- 4 この法人の最初の理事の任期は、平成27年開催予定の定時社員総会終結の時までとする。
- 5 第7条第2項の規定にかかわらず、この法人の設立時社員は、次のとおりとする。

設 立 時 社 員 (住所記載省略)

下 光 輝 一

設 立 時 社 員 (住所記載省略)

小 野 寺 昇

- 6 この法人の設立時役員は、次のとおりとする。

設 立 時 理 事 荒 尾 孝

設 立 時 理 事 碓 井 外 幸

設 立 時 理 事 大 野 誠

設 立 時 理 事 小 野 寺 昇

設 立 時 理 事 勝 村 俊 仁

設 立 時 理 事 川 久 保 清

設 立 時 理 事 川 原 貴

設 立 時 理 事 栗 原 敏

設 立 時 理 事 坂 本 静 男

設 立 時 理 事 定 本 朋 子

設 立 時 理 事 下 光 輝 一

設 立 時 理 事 下 村 吉 治

設 立 時 理 事 鈴 木 政 登

設 立 時 理 事 武 政 徹

設 立 時 理 事 竹 森 重

設 立 時 理 事 田 中 喜 代 次

設 立 時 理 事 田 中 宏 暁

設 立 時 理 事 田 畑 泉

設 立 時 理 事 鳥 居 俊

設 立 時 理 事 永 富 良 一

設 立 時 理 事 西 平 賀 昭

設 立 時 理 事 浜 岡 隆 文

設 立 時 理 事 福 永 哲 夫

設 立 時 理 事 山 内 秀 樹

設 立 時 理 事 吉 岡 利 忠

設 立 時 代 表 理 事 下 光 輝 一

設 立 時 監 事 小 林 康 孝

設 立 時 監 事 能 勢 博

一般社団法人 日本体力医学会 定款施行細則

第1章 通 則

第1条 一般社団法人日本体力医学会定款第45条に基づき、会員、役員及び評議員の選出、委員会、学術集会等に関する諸規程を設ける。

第2章 会 員

第2条 この法人の会費は、次のとおりとする。

- (1) 正 会 員 年額 10,000円
- (2) シニア会員 年額 5,000円
- (3) 賛 助 会 員 年額 1口以上（1口50,000円）

2 会費は年度末までにそれぞれ納入しなければならない。

3 正会員、シニア会員ならびに名誉会員は、学術講演会及び機関誌に業績を発表することができ、また、機関誌等の頒布を受けるものとする。

4 賛助会員は、機関誌の頒布を受けるものとする。

第3条 シニア会員の認定は、本人の申請により理事会で行う。

2 シニア会員の認定を受ける正会員は、次のいずれも満たす者とする。

- (1) シニア会員を申し込むときの年齢が満70歳以上であること。
- (2) 日本体力医学会の正会員歴20年以上であること。

3. シニア会員の認定を受けた者は、評議員の資格を喪失する。

第3章 評議員の選出等

第4条 評議員の選出は、推薦された評議員候補のうちから選考委員会の議を経て、評議員会で選任する。

2 評議員の選出に必要な事項は、別に「評議員選考内規」に定める。

第4章 理事候補、評議員会長候補及び監事候補の選出等

第5条 理事候補者、評議員会長候補者及び監事候補者は、別に定める「選挙管理規程」に従い、4年毎に評議員の選挙によって選出する。

2 理事については、定款の規定により任期満了となる選任2年後の社員総会において、理事再任の承認を得ることにより、在任期間を4年とする。

第5章 委 員 会

第6条 この法人にその事業遂行のために、次の常設委員会を置く。

- (1) 総務委員会
- (2) 編集委員会
- (3) 学術委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 評議員選考委員会
- (6) 渉外委員会
- (7) 倫理委員会
- (8) 利益相反委員会

2 各常設委員会の任務，任期，定員等は，別に定める。

第7条 この法人に，常設委員会の他，総会又は理事会の決議により必要があると認めるときは特定の事項を行わせるため特別委員会を置くことができる。

第6章 学術講演会，大会長等

第8条 学術大会に大会長を置く。

第9条 大会長は，理事会が推薦し，社員総会で選任する。

2 大会長は，当該年度の学術集会を組織し運営にあたる。

3 学術集会の運営等に関する規程は，別に定める。

第10条 大会長は，理事長の判断により必要な理事会に出席する。但し，議決権を持たない。

第11条 この法人は，理事会の議を経て，学術講演会，研修会，市民公開講座等を開催できることとする。

第7章 顧 問

第12条 この法人に，1名以上5名以内の顧問を置くことができる。

2 顧問は，この法人における理事長の経歴を有する者で，次の職務を行う。

(1) 理事長の相談に応ずること。

(2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること。

3 顧問の選任及び解職は，理事会において決議する。

4 顧問は，無報酬とする。

第8章 表 彰

第13条 この法人は，日本体力医学会学会賞等を設ける。各賞に関する事項は，学会賞選考委員会規程に定める。

第9章 補 則

第14条 この細則の変更は，社員総会の決議を経なければならない。

附 則

1. この細則は，この法人成立の日から施行する。



体力科学投稿規定

改訂：2018（平成30）年9月8日

I. 投稿資格

本誌への投稿は本学会の会員・非会員を問わない。また、編集委員会が必要と認めた場合、会員・非会員を問わず投稿を依頼することができる。

II. 掲載採否・順序

原稿の採否は、原則として2名の査読審査により編集委員会にて決定する。査読者からの意見やコメント等は2ヶ月以内に修正した論文を提出する。期限内に提出されなかった論文は不採択とする。掲載は原則として採択順とする。

III. 原稿の種類

総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）、教育講座、抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）とし、原則として和文のみとする。

- A. オンライン投稿：投稿総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）とする。
- B. 依頼総説、教育講座、地方会抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを使用せず、以下のE-mailアドレスへ添付ファイルで投稿する。

hj-tairyoku@turui.co.jp

IV. 原稿一般規定

ヒトおよび実験動物を対象とした研究の原著、ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）では、当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは動物実験委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記し、承認番号を記載するものとする。掲載された論文の著作権は日本体力医学会に帰属する。

- A. 使用ソフトウェア：下記の汎用ファイルで作成する。
 - 本文ファイル：Microsoft Office Word
 - 図表ファイル：Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG
- B. 用紙設定：和文、英文抄録ともに、用紙設定をA4判とし、上下左右3cmの余白を設け、左側に行番号を入れ、一段組みで10.5ポイント以上の文字でダブルスペースにて入力する。
- C. 用語：日本医学会医学用語管理委員会編「日本医学会用語辞典」英和改訂第3版（2007年出版）、和英（1994年出版）を参照する。
- D. 文体：原稿は、平かな、新かなづかい。当用漢字、外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語、外来語、動植物名などは片かな、数字はアラビア数字を使用する。
- E. 単位及び単位記号：原則として国際単位系（SI）に従うが、当該領域で慣用されているものはこの限りではない。
- F. 図表：説明は英文で適切な題目をつけ、それに続いて図表の内容が理解できる説明を別紙に記載する。
- G. 掲載料及び別刷料：1頁あたり5,000円の掲載料を著者が負担する。（2,400字が刷り上がり1頁に相当する）カラー頁は、1頁あたり20,000円の掲載料を著者が負担する。別刷料は著者負担とする。なお、論文掲載後に正誤表を新たに追加する際、その料金は著者負担とし、1頁につき10,000円の掲載料を負担する。地方会抄録の掲載料は原則無料とする。ただし、地方会大会事務局が認めた非学会員の抄録掲載料は、1演題あたり3,000円とする。その他、学会大会および地方会大会で大会事務局が招聘した発表抄録の掲載料は原則無料とする。

H. 校正：編集委員会の決定した期日内で、校正はすべて著者の責任により行う。

I. 投稿についての問い合わせ

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局宛

〔電話FAX 共通 0235-22-3120〕 E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

V. 投稿規定

A. 原著および総説

1. 論文は独創性に富み、未投稿の研究論文とする。1頁目には、表題、著者名、共著者名、所属機関名、所在地の各（和・英）と、別刷希望部数を明記する。2頁目には英文抄録とKey words、3頁目以降に緒言、方法、結果、考察、引用文献、図の説明の順に記載する（図表の挿入位置は本文に赤で示す）。表および図は本文原稿とは別に作成する。また、表および図の中の文字および説明は、英語表記とする。
2. 原稿には英文抄録（Abstract：研究目的、方法、結果、結論などを含めて250words以内で記載）およびその和訳文を付ける。またランニングタイトルは、和文で20字以内を明記し、Key words（5語以内）を付ける。Key wordsはMedical Subject Headings（国立医学図書館：最新号）を参考にする。
3. 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩か著者名の右肩に、末尾の引用文献に照応する番号を付ける。3人以上の共著の場合は“ら”“et al.”を用いる。

例1：長島¹⁾によれば……………

例2：手島と角田²⁾によれば……………

例3：馬ら³⁾によれば……………

4. 文献表の作り方

- 1) 引用文献の記載順序は本文中の引用順に整理して、本文中の番号と照合する。文献表の著者名は“ら”、“et al.”と省略せず、全著者名を列記する。人名の記載順は姓を先にして名を後にする。本文中に引用されていない文献は、文献表に記載しない。doiの記載を推奨する。

2) 雑誌から直接引用する場合

番号、著者名：論文表題、掲載雑誌、巻：頁（始頁－終頁）、西暦年数の順に記す。

例1：長島未央子：長時間自転車運動が鍛練者の酸化ストレス度及び血中ビタミン濃度に及ぼす影響, 体力科学, 60: 279-286, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.279.

例2：手島貴範, 角田直也：身長の相対発育からみた男子サッカー選手の大腿部筋厚発育とボールキック能力の発達, 体力科学, 60: 195-205, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.195.

例3：馬 佳濛, 柴田 愛, 村岡 功：インターネットを利用する中国成人における推奨身体活動充足に関連する社会人口統計学的要因, 体力科学, 60: 185-193, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.185.

3) 単行本から引用する場合

番号、著者または編者名、章名、書名（章名がある場合は書名をイタリック体にする）、版数（括弧に入れる）、編者名（章著者がある場合）、発行所、発行所の所在地、引用頁、西暦年数の順に記す。

例：彼末一之, 中島敏博. 4. 神経機構 I - 温度求心路と体温調節「中枢」-, 脳と体温 - 暑熱・寒冷環境との戦い -, 共立出版, 東京, 72-97, 2000.

4) 訳本から引用する場合

著者名, (訳者名), タイトル, 出版社, 地名, ページ, 出版年の順に記す。

例：アメリカスポーツ医学協会編（日本体力医学会体力科学編集委員会監訳）, 運動処方の指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第8版, 南江堂, 東京, 57-108, 2011.



5) 欧文の雑誌と単行本から引用する場合

例 1 : Steinberg SF. The molecular basis for distinct β -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111, 1999. doi:10.1161/01.RES.85.11.1101.

例 2 : Bajotto G, Shimomura Y. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247, 2006. doi:10.3177/jnsv.52.233.

例 3 : Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K, Imaizumi K. Effects of the β_2 -agonist clenbuterol on β_1 - and β_2 -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400, 2008. doi:10.1254/jphs.08097FP.

例 4 : Shimomura Y, Murakami T, Nakai N, Nagasaki M. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress Vol.1* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA, 89-116, 2001.

B. ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）

原著及び総説の投稿規定に準ずる。但し、ノートおよび事例報告（症例報告を含む）は原則として刷り上がり4頁以内、図表は2点までとする。

C. 依頼総説および教育講座

1. 依頼総説および教育講座は、体力科学編集委員会の依頼による。

2. 原稿について

1) 依頼原稿は刷り上がり10頁以内を原則とする。

2) いずれの原稿も表題、著者名、所属などは体力科学投稿規定V-Aに準じて英文名を附す。教育講座では必ずしも英文抄録を必要としないが、依頼総説では体力科学投稿規定V-Aに準ずる。

D. 地方会の抄録

原稿は、一編900字以内で表題、著者名、所属、本文を和文で記す。

※提出期限に遅れた場合、本誌に掲載されない。

E. その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）

※Letter to the Editorの項では、本誌に掲載された原著、総説、その他の掲載内容についての質問、疑問、コメント等を編集委員会に寄せ、それに対する回答を執筆者に求め、その内容を掲載する。質問者も回答者もすべて実名とする。

VI. 倫理・利益相反

A. 人体ならびにヒト組織を対象とした科学研究を取り扱う論文では、その実験は1964年のヘルシンキ宣言（<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>）で承認された倫理基準、または2014年12月に文部科学省および厚生労働省により制定された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000069410.pdf>）に従って実施されなければならない。また、ヒト遺伝子を取り扱う実験は、日本政府のヒトゲノム・遺伝子解析研究（http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html）に従ってなされなければならない。日本体力医学会編集委員会では、所属機関の倫理委員会の承認を得た後に実施された研究に限ってその論文の投稿を受け付ける。当該研究がこれらのガイドラインに従って実施されたことを投稿論文内に明記し、さらに所属機関の倫理委員会が発行した承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。

B. 実験動物を対象とした研究においては、わが国の動物実験関連法規・指針を遵守して実施され

なければならない。投稿論文内にはその旨を必ず明記し、所属機関の動物実験委員会等が発行した当該動物実験承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。

- C. 総説，原著論文，それに準ずる論文を投稿する際，日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反（COI）に関する指針（http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm）に基づき，該当する場合には（「自己申告による利益相反申告書」（別紙様式1））に記入し，併せて編集事務局に提出するものとする。

また，記載例に倣って，論文末尾にCOIに関して記載するものとする。項目が網羅されていれば簡潔にまとめて記載できるものとする。記載箇所は参考文献の前とする。

COIに記載を求める事項

- ①当該研究者の所属企業名（部署名，職名）
- ②当該企業からの出資（出資がある場合）
- ③当該研究への関係企業の関与について（研究結果の学会発表や論文発表の決定に関して関係企業が影響力の行使を可能とする契約の有無）
- ④当該研究結果に影響を与えうる企業からの労務提供としての受け入れになっていないか
- ⑤その他，利益相反として申告すべきこと

記載例

- ・ A（著者）はZ社（企業）の社員（取締役・顧問）である。
- ・ Bの配偶者はY社の取締役（顧問）である。ただし，本研究の結論にY社の影響はない。
- ・ CはX社から研究費を受けた。ただし，本研究の結果解釈や結論にX社の関与はない。
- ・ DはV社から講演料を受けた。ただし，本研究の結論にV社の影響はない。
- ・ EはU社の特許を有している。ただし，本研究の結果解釈や結論にU社の関与はない。
- ・ FはT社から会議参加の費用提供を受けた。ただし，本研究の結果解釈や結論にT社の関与はない。
- ・ GはS社から販促資料執筆に対して謝礼を受けた。HはR社より労務提供を受け入れた。ただし，本研究の結論にS社およびR社の影響はない。
- ・ Iに利益相反はない。
- ・ 共著者全員が利益相反はない。

定められた利益相反状態に該当しない場合は，論文末尾に上記の最後の例，「利益相反自己申告：著者全員が利益相反はない」と記載するものとする。

附：投稿論文の種類は概ね次の基準によって分類される。

- 1) 原著：独創的研究で新しい事実と価値ある結論を有するもので，体力科学・スポーツ医学の進歩に貢献するものとする。
- 2) ノート：原著より短いが，新しい事実や価値ある結論が含まれるものとする。
- 3) 資料：適切な分析法または調査法による有用な結果が含まれ，公表することにより体力科学・スポーツ医学の分野において会員の研究・実践活動に有用な情報を含むものとする。
- 4) 事例報告(症例報告を含む)：運動・スポーツ等による体力医学・スポーツ医学の立場からみた様々な効果または治療・指導効果等の事例報告。

論文の分類

I 生理科学的研究

- I - 1 神経, 感覚
 - I - 1 - a 末梢神経
 - I - 1 - b 中枢神経
 - I - 1 - c 感 覚
 - I - 1 - d 運動制御
- I - 2 運動器
 - I - 2 - a 筋生理
 - I - 2 - b 筋生化学
 - I - 2 - c 骨, 関節
- I - 3 呼吸, 循環
 - I - 3 - a 呼 吸
 - I - 3 - b 心 臓
 - I - 3 - c 末梢循環
- I - 4 血液, 免疫
 - I - 4 - a 血 液
 - I - 4 - b 免 疫
- I - 5 体液, 内分泌
 - I - 5 - a 体液, 汗, 尿
 - I - 5 - b 内 分 泌
- I - 6 代 謝
 - I - 6 - a エネルギー代謝
 - I - 6 - b 糖代謝
 - I - 6 - c 蛋白代謝
 - I - 6 - d 脂質代謝
- I - 7 栄養, 消化
 - I - 7 - a 栄 養
 - I - 7 - b 消化, 吸収
- I - 8 形態, 体構成
- I - 9 加齢, 性差
 - I - 9 - a 発育発達
 - I - 9 - b 老 化
 - I - 9 - c 性 差
- I - 10 環 境
 - I - 10 - a 温湿度
 - I - 10 - b 気圧, 風圧
 - I - 10 - c 低酸素
 - I - 10 - d 高酸素

- I - 11 トレーニング
 - I - 11 - a 呼吸, 循環
 - I - 11 - b 代謝
 - I - 11 - c 筋骨格系他
 - I - 11 - d 体組成
 - I - 11 - e その他
- I - 12 生活, 健康
 - I - 12 - a 休養, 疲労
 - I - 12 - b 健康管理
 - I - 12 - c 疫 学
- I - 13 バイオメカニクス
 - I - 13 - a 力学的情報
 - I - 13 - b 動作分析
 - I - 13 - c その他
- I - 14 遺伝子
 - I - 14 - a 遺伝子多型
 - I - 14 - b 遺伝子制御
 - I - 14 - c その他
- I - 15 その他

II スポーツ医学的研究

- II - 1 スポーツと疾患
 - II - 1 - a 呼吸器疾患
 - II - 1 - b 循環器疾患
 - II - 1 - c 代謝疾患
 - II - 1 - d スポーツ外傷
 - II - 1 - e スポーツ障害
 - II - 1 - f スポーツ歯科
 - II - 1 - g その他の疾患
- II - 2 リハビリテーション, 運動療法
 - II - 2 - a リハビリテーション
 - II - 2 - b 運動療法
- II - 3 薬物, ドーピング
- II - 4 スポーツ心理学
- II - 5 その他

JPFSM : Instructions for Authors

September 8, 2018

*An Official Journal of the Japanese Society of
Physical Fitness and Sports Medicine*

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (J. Phys. Fitness Sports Med. : JPFSM) Instructions for Authors

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM) is a scientific journal that publishes peer-reviewed **regular articles, short communications, case reports, study protocol, reviews, short reviews, letters to the editor and proceedings**, based on the principles and theories of modern physical fitness and sports medicine. All aspects of interdisciplinary sciences such as physical fitness, sports medicine, exercise physiology, biomechanics, training sciences and health sciences are covered. The Journal will publish original and innovative submissions in English from both members and non-members of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, on the understanding that the work is unpublished (except in abstract form) and is not being considered for publication elsewhere. The process of obtaining results must be ethically sound.

Only manuscripts that are written in clear and concise English will be accepted for review. If English is not the authors' first language, the Editorial Committee recommends the manuscript receives professional editing service before submitting their manuscript to the Journal. English editing and revision will be conducted on manuscripts whose English grammar, spelling, *etc.* is judged to be inadequate by the Editorial Board of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

1. TYPES OF MANUSCRIPT(S)

The Journal publishes eight types of manuscript(s):

- 1) **Regular Articles:** The manuscript being submitted must consist of original research carried out by the author(s) and the research must include new information that is of significance. These articles should be 10 printed pages or less.
- 2) **Short Communications:** The manuscripts being submitted must consist of original research carried out by the author(s) and the research must include preliminary or more limited research results, but of general or special interest. Manuscripts containing interesting findings without detailed discussion, research results of narrow scope of a predominantly negative nature may also be suitable for publication as *Short Communications*. These articles should be 4 printed pages or less.
- 3) **Case Reports:** A case report is for introducing a rare example or medical case without precedent, not for verifying a hypothesis. The manuscript being submitted must consist of actual examples (usually from one to two or more) of various issues or phenomena from physical activities, sports, etc. Such issues or phenomena should come from the area of physical fitness and sports medicine, or therapeutic/instructional topics, etc. These articles should be 4 printed pages or less. A case report is a brief report categorized under *Case Reports* and should be organized as follows: "Abstract", "Introduction", "Case Report", "Discussion", "References".
- 4) **Study Protocol:** A study protocol is for introducing a method of verifying various issues or phenomena from physical activities, sports, etc that are from the area of physical fitness, health science, and sports medicine. The study must be in the planning stage or in progress. These articles should be 10 printed pages or less. For



reporting a protocol of a randomized controlled trial, it must conform to the SPIRIT Statement (Standard Protocol Items for Randomized Trials) (<http://www.spirit-statement.org/>).

- 5) **Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and encompass recent important scientific discoveries. Volunteered reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board. Reviews are more broad based and these articles should be 10 printed pages or less.
- 6) **Short Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and will mainly describe recent research results from the authors' own laboratories. Volunteered short reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board and these articles should be 4 printed pages or less.
- 7) **Letters to the Editor:** Constructive comments and questions on regular articles, reviews, and other manuscripts published in this journal will be sent to the editorial board for consideration. An opportunity will be provided for rebuttal to the authors in question. Responses from the authors, together with the names of authors and names of those submitting questions or comments, will be published. Instead of using the J-STAGE online manuscript submission system, letters to the editor should be submitted to the following email address as an attached file. (hj-tairyoku@turui.co.jp)
- 8) **Proceedings:** Proceedings provide short summaries of in-progress or completed primary studies that have been presented at the General Sessions of the Annual Meeting of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, but have not yet been fully peer-reviewed for publication as complete articles. Proceedings (up to 1,800 characters) will be published in Number 6 of the journal.

2. REVIEWS

- 1) With the exception of Invited Reviews and Short Reviews, manuscripts will be reviewed by two or more referees, whose opinions will form the basis of the final decision by the editor.
- 2) The manuscripts in the invited Reviews and Short Reviews will be reviewed by the Editorial Board members.
- 3) Authors should submit the revised manuscript no later than two months from the date of notation of manuscript revision by the editor. A manuscript that is not revised within two months may be rejected.
- 4) Proceedings have not yet been fully peer-reviewed for publication as other articles.

3. SUBMISSION GUIDELINES

- 1) The manuscript must be submitted from "J-STAGE online submission and review system".
<http://www.editorialmanager.com/jpfsm/>
Letters to the Editor: Instead of using the J-STAGE online manuscript submission system, letters to the editor should be submitted to the following email address as an attached file. (hj-tairyoku@turui.co.jp)
- 2) Proceedings must be submitted through the Annual Meeting website by the submission deadline. Proceedings submission guidelines will be available on the website.

4. CONTACT US

Editorial office of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine
Tsuruoka Printing Co., 1-1 Doai, Oyodogawa, Tsuruoka-shi, Yamagata-ken 997-0854, Japan
E-mail: hj-tairyoku@turui.co.jp

5. MANUSCRIPT PREPARATION

1) Cover Letter

The "Required Submission Form" should be attached with the manuscript as a cover letter. It should include information on the corresponding author (the corresponding author's name, affiliation and address, telephone/fax numbers, and e-mail address), and for non-native English-speaking authors, the name of the native English

speaker and company that checked the manuscript for correct English usage. For contributions from Japan, the corresponding author's name and address should be written in Japanese as well as English.

Upon acceptance of an article by the Journal, the abstract will be published on the homepage of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

2) Manuscript

Authors should use Times New Roman 12pt font double-spaced (80 strokes×26 lines) on A4 size paper, single sided and line-numbered throughout.

(1) Title page The title page (page 1) should start with the type of manuscript (Regular Article, Short Communication, Review, *etc.*), the title, name(s) of the author(s), affiliation(s), mailing address(es), number of tables and figures, a brief running title (70 characters or less). The corresponding author's e-mail address should be included in the title page. An asterisk(*) should be added to the right of the corresponding author's name.

(2) Abstract and Keywords Page 2 should contain a abstract no longer than 250 words, as well as 3 to 6 descriptive keywords, listed in decreasing order of importance. The keywords must be independent, as they will be used in a keyword combination in the index (within 80 characters). Page 3 should contain the title, affiliation(s), author(s) names and abstract in Japanese, if a manuscript is written by Japanese authors.

(3) Main text The text ("Introduction", "Materials and Methods", "Results" and "Discussion". "Results" and "Discussion" may also be combined as "Results and Discussion".), acknowledgments, and references should be presented in this order. After a manuscript has been accepted, authors will require to formally submit their paper in electronic format.

6. MANUSCRIPT FORM

1) Affiliations When there are two or more authors and they belong to more than one affiliation, the connection between each author and his or her affiliation should be indicated by italicized superscript *1, 2, 3...* placed after each author's name and before each affiliation.

Examples for describing affiliations and mailing addresses:

¹ *Laboratory of Physiological Sciences, Faculty of Human Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan*

² *Laboratory of Biomechanics, Faculty of Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan*

³ *Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University, 1-61-1 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, Japan*

⁴ *Laboratory of Applied Biochemistry, Faculty of Science and Engineering, Waseda University, 3-4-1 Oukubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8555, Japan*

2) Abbreviations Abbreviations must be spelled out in full at their initial appearance, followed by the abbreviation in parentheses. Thereafter, only the abbreviation is necessary. Authors should limit to an absolute minimum the use of abbreviations in the title. However, the following need not be defined: AMP, ADP, ATP, cAMP, cDNA, CoA, DNA, RNA, mRNA, LD₅₀, FAD, FMN, GMP, P450, *etc.*

3) Units The following units should be used: length (m, cm, mm, μm, nm), mass (kg, g, mg, μg, ng, pg, mol, mmol, μmol, nmol), volume (l, ml, μl), time (s, min, h, d), temperature (°C, K), radiation (Bq, Ci, dpm, Gy, rad), and concentration (M, mM, mol/l, mmol/l, mg/ml, μg/ml, ng/ml, pg/ml, %, %(v/v), %(w/v), ppm, ppb).

4) Nomenclature The nomenclature used for chemical compounds shall be in accordance with the nomenclature rules of the IUPAC.

5) Tables Using the same word-processing software as used for text, create tables on an A4 page numbered sequentially with Arabic numbers (e.g., Table 1). Give the title at the top of each table, and footnotes, legend *etc.* under the table.



6) Figures Use figures directly created as camera-ready copy. Place each figure on an A4 page and number sequentially with Arabic numerals (e.g., Fig. 1). Titles and footnotes, descriptions etc. should be given on a separate page, under the heading “Figure Legend”.

Drawings prepared with the aid of software packages are acceptable as long as they are high-quality print-out ready. Drawings prepared for oral presentation are seldom suitable for use in printed documents. All figures should be marked with the first author’s name and number in the lower right corner of each sheet.

The appropriate location of each table or table embedded in the text should be indicated in red ink in the margin of the manuscript. Duplication of data in tables and figures should be avoided. The cost of color reproduction of figures will be charged to the author(s).

7) References References should be restricted to only those that are essential, and extensive review of the literature should be avoided. References cited in the text should be numbered (in italic) in order of appearance and listed at the end of the text. Indication of doi (digital object identifier) is encouraged.

Examples of references are as follows:

For references with only one author:

Steinberg SF. 1999. The molecular basis for distinct β -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111. doi: 10.1161/01.RES.85.11.1101.

Two authors:

Bajotto G and Shimomura Y. 2006. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247. doi: 10.3177/jnsv.52.233.

Up to twenty authors:

Author A, Author B, Author C, Author D, Author E, Author F, Author G, Author H, Author I, Author J, Author K, Author L, Author M, Author N, Author O, Author P, Author Q, Author R, Author S and Author T. 2008. Effects of the β_2 -agonist clenbuterol on β_1 - and β_2 -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400. doi:10.1254/jphs.08097FP.

More than twenty authors, list the twenty followed by et al.:

Author A, Author B, Author C, Author D, Author E, Author F, Author G, Author H, Author I, Author J, Author K, Author L, Author M, Author N, Author O, Author P, Author Q, Author R, Author S and Author T. et al. 2012. Some aspects of heat stress on the plasticity of skeletal muscle cells. *J Phys Fitness Sports Med* 1: 197-204. doi: 10.7600/jpfs.1.197.

Citation from a book:

Shimomura Y, Murakami T, Nakai N and Nagasaki M. 2001. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), 1: 89-116, Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA.

Citation from a paper in Japanese:

Nagashima M. 2011. Effects of endurance exercise on oxidative stress and antioxidant vitamin levels in trained cyclist. *Tairyoku Kagaku (Jpn J Phys Fitness Sports Med)* 60: 279-286 (in Japanese). doi: 10.7600/jspfs.60.279.

If more than two references with the same year and author(s) are cited, use lowercase letters after the year (Tanaka et al. 2015a, 2015b). Lowercase letters should be inserted in same-year references in the reference list.

7. ETHICS / Conflicts of Interest (COI)

1) For manuscripts dealing with scientific investigations involving human subjects and/or human tissues, the experiments should be performed in accordance with the ethical standards formulated in the Helsinki Declaration of 1964 (<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>) and/or Ethical Guidelines for Medical and

Health Research Involving Human Subjects (<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000080278.pdf>), while experiments dealing with the human genome should be conducted according to the Japanese Government's "Ethical Guidelines for Human Genome/ Gene Analysis Research" (http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html). Furthermore, only studies that have been performed after receiving approval from the appropriate Institutional Ethics Committee (IEC) will be accepted for publication. "Materials and methods" sections on research using human subjects or samples must include ethics statements that specify: the study was carried out in accordance with the appropriate guidelines, and the name of the approving institutional review board or equivalent committee(s) with the approval number.

- 2) Manuscripts describing animal experiments should be conducted in accordance with the experimental animal guidelines of the institution as well as the appropriate government guidelines, such as those published by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. Only manuscripts of experiments conducted in accordance with the appropriate guidelines will be eligible for publication. "Material and methods" sections of manuscripts reporting results of animal research must include required ethics statements that specify: the study was conducted according to the appropriate guidelines, the full name of the institutional Animal Care and Use Committee or equivalent ethics committee that approved the work, and the associated permit number(s).
- 3) When submitting reviews, original articles, and articles equivalent to these, authors should declare a conflict of interests (COI) in accordance with the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine guidelines as shown in the following link: (http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm). In the event the guidelines are partially applicable, (http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm), the relevant portion(s) should be described in the "Declaration of Conflict of Interest by Self-report" (Attached Form 1) and submitted to the Editorial Board.

Furthermore, authors should declare their COI status at the end of the article as follows,

- (1) Name(s) of the company of authors (including the position and the department)
- (2) All financial support from the business that the authors work for (if the submitted research is financially supported by a business)
- (3) Description of funder's role in the study design, collection, analysis, and interpretation of data, writing of the paper, and/or decision to submit for publication
- (4) Manpower supply from the business
- (5) Any other COI

Examples as follows:

1. The authors have read the journal's policy and have the following conflicts: AA, BB, CC, DD, and EE are employees of XXX Corporation, who supported a given study, in part. However, the sponsor had no role in the study design, data collection and analysis, decision to publish, or preparation of the manuscript. There are no patents, products in development or marketed products to declare. The authors have declared that no competing interests exist.
2. AA, BB, CC, and DD are employees of YYY Corporation. EE has not received any payments for a given study from YYY Corporation. The authors have declared that no competing interests exist. This does not alter the authors' adherence to Journal of Physical Fitness and Sports Medicine policies.
3. In the event the guidelines are not applicable to the given conflict of interests condition, this should be declared by writing "Conflict of Interests: The author(s) declare that there is no conflict of interests regarding the publication of this article" at the end of the article.



8. PROOF READING

The author will be required to proof-read the galley of an accepted manuscript. Major changes at this time will no longer be permitted.

9. PAGE CHARGE

For page charges, see the table below (not including tax). The corresponding Author will be invoiced after publication.

| | Page Charge (yen/page) | Color Photo (yen/page) |
|--------------------------|------------------------|------------------------|
| Regular Article | 5,000 | 20,000 |
| Short Communication | 5,000 | 20,000 |
| Case Report | 5,000 | 20,000 |
| Study Protocol | 5,000 | 20,000 |
| Review (submitted) | 5,000 | 20,000 |
| Short Review (submitted) | 5,000 | 20,000 |
| Letters to the Editor | 0 | 0 |

Invited Reviews and Short Reviews have no page charges.

10. OTHER IMPORTANT POINTS

- 1) In general, after a paper has been reviewed, no authors may be added or deleted from the paper, and the order of the names of the authors cannot be changed.
- 2) The authors are given an opportunity to proofread the galley of an accepted manuscript. No additions and revisions are allowed other than the correction of typographical errors.
- 3) The copyrights of all manuscripts published in the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine belong to the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

Categories covered

| | | |
|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 Nervous and sensory system | 2 Motor control | 3 Musculoskeletal system |
| 4 Respiratory and circulatory system | 5 Hematology and immunology | 6 Humor and endocrinology |
| 7 Metabolism | 8 Nutrition and digestion | 9 Morphology and body composition |
| 10 Aging and gender difference | 11 Environmental physiology | 12 Exercise training |
| 13 Lifestyle and health | 14 Biomechanics | 15 Genes and gene regulation |
| 16 Sports medicine and diseases | 17 Rehabilitation and exercise therapy | 18 Drug and doping |
| 19 Sports psychology | 20 Miscellaneous | |

ご 案 内

〈各種手続方法〉

| | 連絡先 | 住所 | 電話番号 | 備考 |
|--|-----------------------------------|--|--------------------------------------|--|
| 正会員の入退会 及び住所所属変更 | 一般社団法人 学会支援機構 一般社団法人日本体力医学会事務局 | 〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 ユニゾ小石川アーバンビル4階 E-mail:jspfsm@asas-mail.jp | TEL 03(5981)6015 FAX 03(5981)6012 | 入会は評議員1名の推薦が必要 入会はHPより登録 http://www.jspfsm.umin.ne.jp/information/index.htm |
| 正会員の会費納入 | 〃 | 〃 | 〃 | 年会費 10,000円 (事務局より送付される 所定振込用紙を使用) |
| 購読会員の入退会 及び購読料納入 | 〃 | 〃 | 〃 | 年間 12,960円 |
| 学会誌のバック ナンバーの販売 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| 賛助会員に関する業務 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| 和文誌の投稿は http://www.editorialmanager.com/jspfsm/ | 「体力科学」編集事務局 | 〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 E-mail:hj-tairyoku@turuin.co.jp | 0235(22)3120 TEL, FAX 共通 | 和文誌「体力科学」 投稿規定はHP参照のこと |
| 英文誌の投稿は http://www.editorialmanager.com/jpfsm/ | 「JPFISM」編集事務局 | 〃 | 〃 | 英文誌「JPFISM」 投稿規定はHP参照のこと |

〈地方会事務局〉

【北海道地方会】

地方会代表：遠山 晴一 事務局長：寒川 美奈
事務局所在地（〒060-0812 北海道札幌市北区12条西5丁目 北海道大学大学院保健科学研究院機能回復学分野）
TEL&FAX：011-706-3329
E-mail：jspfsm-hokkaido@hs.hokudai.ac.jp

【東北地方会】

地方会代表：永富 良一 事務局長：安田 俊広
事務局所在地（〒960-1296 福島県福島市金谷川1 福島大学人間発達文化学類）
TEL&FAX：024-548-8209
E-mail：yasuda@educ.fukushima-u.ac.jp

【北陸地方会】

地方会代表：橋爪 和夫 事務局長：田村 暢熙
事務局所在地（〒920-0265 石川県河北郡内灘町大学2-224）
TEL：076-286-1078
E-mail：tamura@kanazawa-med.ac.jp

【関東地方会】

地方会代表：竹森 重 事務局長：山内 秀樹
事務局所在地（〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8 東京慈恵会医科大学・分子生理学講座・体力医学研究室（担当 田口美香））
TEL：03-5400-1200（内線2216），FAX：03-3431-3827
E-mail：mol-phys@jikei.ac.jp

【東海地方会】

地方会代表：石田 浩司 事務局長：水野 貴正
事務局所在地（〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町E5-2(130) 名古屋大学総合保健体育科学センター）
TEL：052-789-3959，FAX：052-789-3957
E-mail：mizuno@htc.nagoya-u.ac.jp

【近畿地方会】

地方会代表：吉川 貴仁 事務局長：吉川 貴仁
※代表と事務局長は兼務。

事務局所在地（〒545-8585 大阪府大阪市阿倍野区旭町1-4-3 大阪市立大学大学院医学研究科運動生体医学内）
TEL：06-6645-3790，FAX：06-6646-6067
E-mail：wsports@med.osaka-cu.ac.jp

【中国・四国地方会】

地方会代表：小野寺 昇 事務局長：矢野 博己
事務局所在地（〒701-0193 岡山県倉敷市松島288 川崎医療福祉大学）
TEL：086-462-1111，FAX：086-464-1109
E-mail：jspfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp

【北九州地方会】

地方会代表：熊谷 秋三 事務局長：増本 賢治
事務局所在地（〒816-8580 福岡県春日市春日公園6-1 九州大学人間環境学研究院）
TEL：092-802-5161
E-mail：masumoto@ihs.kyushu-u.ac.jp

【南九州地方会】

地方会代表：徳田 修司 事務局長：與谷 謙吾
事務局所在地（〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学体育学部スポーツ生命科学系）
TEL：0994-46-4934
E-mail：yotani@nifs-k.ac.jp

〈FIMS(国際スポーツ医学会)事務局〉

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE MÉDECINE
SPORTIVE (F.I.M.S.)

Secretary General of FIMS:
Prof. Lyle J Micheli, MD, USA
Office: Children's Hospital- 2nd floor, Division of Sports
Medicine, 319 Longwood Avenue,
Boston, MA 02115, UNITED STATES OF AMERICA
Tel : +617 355 6970 Fax: +617 730 0694
Email: michelilyle@aol.com
Alternate Email: stacey.cobban@childrens.harvard.edu

2018年度第1回日本体力医学会編集委員会議事録

日時：2018年9月6日(木) 15:45～16:45

場所：アオッサ6F 研修室603

出席者：田中喜代次(委員長),
後藤勝正, 和気秀文(各副委員長),
秋本崇之, 家光素行, 宇高 潤, 大藏倫博,
大島秀武, 川中健太郎, 木田哲夫, 小山勝弘,
武政 徹, 竹森 重, 田中英登, 寺田 新,
十枝内厚次, 中田由夫, 成田和穂, 藤井宣晴,
前田清司, 松尾知明, 宮下政司, 山内秀樹,
吉川貴仁, 渡辺 賢(各委員)

(編集事務局：佐藤信之, 本間佳子, 田中加奈子)

欠席者：赤間高雄, 加藤晴康, 北川 淳, 小宮秀明,
小宮山伴与志, 小山照幸, 重松良祐, 中澤公孝,
沼尾成晴, 浜岡隆文, 藤田 聡,
麓 正樹(各委員)(委任状12通)

【審議事項および報告事項】

1. 2017年度第1回編集委員会の議事録

上記の件につき確認された。

2. 特集号の企画について

和気副編集委員長より「体力科学」および「JPFISM」特集号の企画について説明された。

現在までに体力科学では3つの企画, JPFISMでは2つの企画が実施または提案されている。

1) 特集号の内容について

体力医学に関わるテーマのうち, 話題性が高く学術的なもので, 論文の種別は原則, 原著か総説とし, JPFISMでは, 刊行当初に多くの総説を掲載した経緯がありその差別化を図るために, 原著論文を中心に構成することを望む。

2) 発行頻度について

当面の間, 体力科学は年2回, JPFISMは年1回の発刊を目指す。

3) 募集について

5つの案が提案されその中で, 編集委員が40名近くいることを踏まえ, 当面は次の2つの案で様子を見ていきたいと説明された。

- ・発刊が軌道に乗るまでは, これまでと同様に編集委員長および副編集委員長が体力科学またはJPFISMの特集号を企画する。体力医学会大会等で取り上げられている話題性のある研究テーマを選び, 専門性を十分に考慮したうえで適任の著者を公平に選定する。
- ・研究分野が多岐にわたっている点や編集業務への

貢献など諸般の事情を鑑み, 編集委員会の中から, 体力科学/JPFISMの特集号を企画していただく委員を選ぶ。この際, 担当編集委員が責任者となって著者を選定し, 原稿を集める。

4) 査読プロセスについて

特集号の著者は編集委員の推薦または承認によって選出されていることを勘案し, 1名以上の査読委員による論文審査の過程を経て, 最終的な判断を担当編集委員および編集委員長に委ねることとする。

3. 投稿規定「論文投稿時のCOIの取り扱い」策定(利益相反委員会と共同)

後藤副編集委員長より, 「体力科学」および「JPFISM」論文投稿時のCOIの取り扱いについて利益相反委員会と共同で策定されたとの説明がなされた。

COIに記載を求める事項や記載例の追加に伴い, 投稿規定が改訂となり2018年9月8日以降の新規投稿からの適用とすることとなった。

また今後, 医学雑誌編集者国際委員会(ICMJE)基準に準拠していく方向であり, さらに追加の対応が求められることが予想される。

4. 「プライバシーポリシー」原案作成について

後藤副編集委員長より, 「プライバシーポリシー」原案作成について説明がされた。

J-STAGEからの依頼, 特に編集業務においてプライバシーポリシーが必要となったため, 和文, 英文版を作成した。和文については学会として作成, 英文については雑誌(JPFISM)専用の対応として作成された。これは前理事会において審議され, 編集委員会の判断にて進めていく旨が承認されており, 大会後に英文はJPFISMオリジナルWebsiteに, 和文は学会ホームページにそれぞれ掲載することが報告された。

5. JPFISM誌・体力科学誌の投稿状況と現状報告

(2017年9月1日～2018年8月31日現在)

田中編集委員長より, JPFISM誌・体力科学誌の投稿・掲載状況, 審査期間, J-STAGEのアクセス統計について報告された。新規投稿についてはJPFISM誌:53編(前年比11編増), 体力科学誌:78編(前年比21編増)であった。JPFISM・体力科学誌とも投稿数が増加した。上位50ヶ国のアクセス統計に関しては, 2017.8.1～2018.7.31までの12ヵ月間で, JPFISM前年比3,281件の減, 体力科学前年比56,853件の増となっていることが報告された。

第23回日本体力医学会東海地方会のご案内

日 時：2019年3月17日(日) 9:00~17:00
 会 場：名古屋学院大学 名古屋キャンパス白鳥 翼館
 クラインホール
 名古屋市熱田区熱田西町1-25
 大会長：山本 親 (スポーツ健康学部)
 会 費：一般 2,000円 学生 1,000円
 プログラム (未定)

受付時刻 8:15~

開会の辞 9:00

一般演題

セッション1 9:05~9:55 座長

セッション2 10:05~10:55 座長

セッション3 11:05~11:55 座長

理 事 会 12:00~12:50 翼館 4F 401会議室

総 会 13:00~13:20 翼館 クラインホール

特別講演 13:30~14:30

「体内時計と運動」

増淵 悟 教授 愛知医科大学医学部生理学講座
 シンポジウム

「様々な角度から体力を考える」 14:40~16:40

演題 「体温調節機能とパフォーマンス」

西村直記 (日本福祉大学スポーツ科学部准教授)

演題 「身体組成の観点からみた体力」

田中憲子 (名古屋大学保健体育科学センター准教授)

演題 「日本人高齢者の体力-過去, 現在, 未来-」

坂井智明 (名古屋学院大学スポーツ健康学部准教授)

演題 「筋肉が健康を守る」

樋口 満 (早稲田大学スポーツ科学学術院教授)

閉会の辞 16:45~

参加の皆様へ

1. 参加費 一般 2,000円 学生/大学院生 1,000円
 当日受付にてお支払い下さい。
2. 受付は8時15分より開始します。

3. 学生/大学院生の方は, 受付時に学生証を提示下さい。

4. 大学内は, 所定の場所以外は全面禁煙です。喫煙はご遠慮下さい。

5. 発表会場内での携帯電話のご使用はご遠慮下さい。
 また, 携帯電話の電源はOFFにするか, マナーモードにして下さい。

6. 昼食は大学周辺の食堂, コンビニ等をご利用下さい。

7. クロークは設置しません。携行品はご自身で管理して下さい。

8. 駐車場はありませんので, 近くの有料駐車場を利用するか, 公共交通機関でご来場下さい。

発表者の皆様へ

1. 一般演題発表者の方は, 8:15~8:45までにデータ受付を行って下さい。データのファイル名は「演題番号 筆頭演者名」として下さい。

なお, 事務局で用意しているパソコンはWindowsです。Macをお使いの方は, パソコンをご持参下さい。

2. 各発表者は, 発表予定の10分前までには次演者席にお着き下さい。

3. 一般演者の発表時間は, 一演題当たり10分です(発表7分, 質疑応答3分)です。

座長の先生へ

セッション開始20分前までに, 受付をお済ませ下さい。

奨励賞審査員の先生へ

8:15~8:45までに受付をお済ませ下さい。

役員の方へ

理事は, 午前中のセッション終了後, 12時より翼館4F401会議室にて行います。

お問い合わせ:

山本 親 (名古屋学院大学スポーツ健康学部)
 chikashi@ngu.ac.jp 090-3554-8206

第172回日本体力医学会関東地方会のご案内

開催日：平成31年3月2日(土) 13:00から17:00
 会 場：東京理科大学神楽坂キャンパス
 森戸記念館第1フォーラム
 東京都新宿区神楽坂4-2-2
 (<https://www.tus.ac.jp/facility/morito/>)
 JR総武線, 東京メトロ有楽町線・東西線・南北線, 都営大江戸線「飯田橋」駅下車, 徒歩8分
 *お車・バイクでのご来場はご遠慮ください。

[一般演題の締め切り予定：平成31年2月9日(土)]

大会長：柳田信也 (東京理科大学理工学部教養)

Tel & Fax: 04-7121-4270

E-mail: yanashin@rs.noda.tus.ac.jp

特別講演①:

「カロリー制限による代謝改善・抗老化・寿命延伸メカニズム」

演者：樋上賀一先生 (東京理科大学薬学部)

特別講演②:

「印刷技術を用いた乳酸/グルコースのウェアラブルデバイスによる測定法」

演者：四反田 功先生

(東京理科大学理工学部先端科学科)

一般口頭発表

第26回バイオメカニズム・シンポジウムin八ヶ岳 「人も機械も星から生まれた」～広い星空の下で、人と機械の深い議論を～

2019年7月5日(金)～7日(日)

於 Royal Hotel八ヶ岳 (山梨県北杜市大泉町)

主 催：バイオメカニズム学会 (SOBIM Japan)

大会ウェブサイト：<https://www.sobim2019.com/>

夜 話：「Space Fantasy LIVE～宇宙と私たちのつながり」

講師 高橋真理子氏(一般社団法人星つむぎの村)

演題申込み締切：2019年2月8日(金)

宿泊申込締切：3月29日(金)

予稿集原稿締切：4月19日(金)

参加申込締切：5月17日(金)

協賛団体(予定)：

計測自動制御学会, システム制御情報学会, 情報処理学会, 人工知能学会, 人体科学学会, 精密工学会, 電気学会, 電子情報通信学会, 日本運動生理学会, 日本看護科学学会, 日本看護技術学会, 日本看護研究学会, 日本機械学会, 日本義肢装具学会, 日本義肢装具士協会, 日本建築学会, 日本作業療法士協会, 日本シミュレーション学会, 日本写真測量学会, 日本人工臓器学会, 日本人類学会, 日本生活支援工学会, 日本整形外科学会, 日本生体医工学会, 日本生理学会, 日本体育学会, 日本体力医学会, 日本人間工学会, 日本バイオマテリアル学会, 日本バイオメカニクス学会, 日本福

社のまちづくり学会, 日本補綴歯科学会, 日本理学療法士協会, 日本リハビリテーション医学会, 日本リハビリテーション看護学会, 日本リハビリテーション工学協会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本臨床神経生理学会, 日本臨床バイオメカニクス学会, 日本ロボット学会, 日本ロボット工業会, ヒューマンインタフェース学会, ライフサポート学会, 臨床歩行分析研究会, IEEE EMBS Japan Chapter, IEEE EMBS West Japan Chapter

第26回バイオメカニズム・シンポジウム実行委員会

大会長 持丸正明

副大会長 三輪洋靖

プログラム委員長 小林吉之

実行委員(五十音順)

岩田浩康, 荻原直道, 小野誠司, 河西伸一, 河合祐子, 木塚朝博, 金 承革, 串田賢一, 窪田 聡, 清水俊治, 中嶋香奈子, 橋詰 賢, 藤本雅大, 保原浩明

シンポジウム事務局

国立研究開発法人産業技術総合研究所

臨海副都心センター本館3階

bms26th@sobim2019.com

第40回バイオメカニズム学術講演会 (SOBIM2019 in Kasugai)

～人と機械の共生を創る～

－開催案内－

主 催：バイオメカニズム学会

会 期：2019年11月30日(土)12月1日(日)

会 場：中部大学・春日井キャンパス

(愛知県春日井市松本町1200)

●講演会内容(予定)

- ・一般講演(3会場)
- ・シンポジウム(テーマ) 1題
- ・ランチョンセミナー 2～3題
- ・機器展示

●協賛団体(予定)

計測自動制御学会, システム制御情報学会, 情報処理学会, 人工知能学会, 人体科学学会, 精密工学会, 電気学会, 電子情報通信学会, 日本運動生理学会, 日本看護科学学会, 日本看護技術学会, 日本看護研究学会, 日本機械学会, 日本義肢装具学会, 日本義肢装具士協会, 日本建築学会, 日本作業療法士協会, 日本シミュレーション学会, 日本写真測量学会, 日本人工臓器学会, 日本人類学会, 日本生活支援工学会, 日本整形外科学会, 日本生体医工学会, 日本生理学会, 日本体育学会, 日本体力医学会, 日本人間工学会, 日本バイオマテリアル学会, 日本バイオメカニクス学会, 日本福祉のまちづくり学会, 日本補綴歯科学会, 日本理学療法士協会, 日本リハビリテーション医学会, 日本リハビリテーション看護学会, 日本リハビリテーション工

学協会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本臨床神経生理学会, 日本臨床バイオメカニクス学会, 日本ロボット学会, 日本ロボット工業会, ヒューマンインタフェース学会, ライフサポート学会, 臨床歩行分析研究会, IEEE EMBS Japan Chapter, IEEE EMBS West Japan Chapter

●実行委員会(予定)

実行委員長：大日方五郎(中部大学)

事務局長：清水新悟(北海道科学大学)

プログラム委員長：

平崎 鋭矢(京都大学霊長類研究所)

実行委員(順不同)：

伊藤 聡(岐阜大学)

小川 淳夫(松本義肢製作所)

神邊 俊宏(トライデントスポーツ医療看護専門学校)

木佐貫義勝(豊田中央研究所)

金 承革(常葉大学)

小柳 健一(富山県立大学)

湯 海 鵬(愛知県立大学)

長谷和 徳(首都大学東京)

速水 達也(信州大学)

2020年度学術講演会委員：山田 洋(東海大学)

常任理事・事業担当：木塚朝博(筑波大学)

日本医学会だより

JAMS News

2018年10月 No.60
日本医学会

◆日本医学会公開フォーラム

日本医師会・日本医学会合同公開フォーラムは「HPV ワクチンについて考える」をテーマに、平成30年10月13日（土）13:00~17:20、日本医師会館大講堂において開催。後援：NHK。

組織委員は、藤井知行（東京大学・産婦人科学）、高橋孝雄（慶應義塾大学・小児科学）の各氏。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）にて受付。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

◆日本医学会シンポジウム

第154回シンポジウムは「AIと医療の現状と課題」をテーマに、平成31年1月16日（水）13:00~17:05、日本医師会館大講堂において開催する。

組織委員は、大江和彦（東京大学・医療情報学）、竹内 勤（慶應義塾大学・リウマチ・膠原病内科学）の各氏。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載中。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を平成30年8月31日（金）に開催し、平成30年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会委員ならびに特例委員が、今年度の推薦数：

医学賞 24、奨励賞 31 を審査した。

選考の結果、11月1日（木）の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・脳機能を支えるシナプスの機能発達、可塑性および伝達修飾の研究/狩野方伸（東大・神経生理学）
- ・大規模コホート研究の推進と日本人のエビデンスに基づいたがん予防法の提言/津金昌一郎（国立がん研究センター社会と健康研究センター）
- ・緩徐進行1型糖尿病（SPIDDM）の成因、診断、および発症・進展阻止治療に関する研究/小林哲郎（冲中記念成人病研究所）

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・慢性炎症における肺線維化機構の解明と病態制御基盤の構築/平原 潔（千葉大・免疫発生学）
- ・臓器間連携を介した新規心臓恒常性維持機構の解明による新規診断・治療法の開発/藤生克仁（東大・先進循環器病学）
- ・健康長寿を目指したアンドロゲン受容体を介する遺伝子発現制御機構の統合的同定解析/高山賢一（東京都健康長寿医療センター研究所）
- ・ヒト新生児が有する脳傷害後のニューロン移動メカニズムの解明と再生促進の実現化/神農英雄（名市大・新生児・小児医学）
- ・大腸癌転移における炎症性サイトカインの機

能解析/谷口浩二（慶大・微生物学・免疫学）

- ・シングルセルRNAseqを用いた角膜移植における制御性T細胞の可塑性の解析/猪俣武範（順天堂大・眼科学）
- ・行動科学理論に基づく情報通信技術を活用した健康格差是正手法の開発と効果検証/近藤尚己（東大・健康教育・社会学）
- ・災害医療情報の国内・国際標準化/久保達彦（産業医大産業生態科学研究所・環境疫学）
- ・光曝露の健康影響：大規模前向きコホート研究による検証/大林賢史（奈良県立医大・疫学・予防医学）
- ・細胞死からみたアレルギー性気道炎症の新しい評価法の確立/植木重治（秋田大・総合診療・検査診断学）
- ・治療難治性癌に対する脂質メディエーター標的治療の可能性の探索/永橋昌幸（新潟大・消化器外科学）
- ・「希少がん」骨軟部腫瘍のがんプレジジョンメディシンデータベースに基づいた新規治療法開発/末原義之（順天堂大・整形外科）
- ・嗅上皮障害後の修復過程におけるインスリンの役割の解明/菊田 周（東大・耳鼻咽喉科学）
- ・初期胚発生の遺伝子発現機構を介した胚性の不妊症の病態解明と再生医療の開発/山田満稔（慶大・産婦人科学）
- ・皮膚線維化疾患におけるγRNAの関与の研究/神人正寿（和歌山医大・皮膚科学）

◆「遺伝子・健康・社会」検討委員会

第17回委員会を平成30年10月5日（金）に開催した。

◆平成30年度日本医学会分科会用語委員会

本年度は平成30年12月18日（火）14:00～16:00, 日本医師会館大講堂にて開催予定である。

◆日本医学雑誌編集者会議（JAMJE） ならびに日本医学会分科会利益相反 反会議合同シンポジウム

第2回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウムを平成30年11月6日（火）13:00～16:35, 日本医師会館大講堂にて開催する。シンポジウムテーマは「医学研究公表のためのコンプライアンス」で、総会に引き続き、6名の演者による講演と総合討論が行われる予定である。

◆日本医学会公開シンポジウム「適切な遺伝学用語のあり方」

平成30年12月11日（火）13:00～17:00, 日本医師会館大講堂にて標記シンポジウムの開催を予定している。昨今の分子遺伝学研究の飛躍的な発展により、ゲノム医療においても多くの遺伝学用語が用いられている。医学用語管理委員会では適切な医学用語について常に検討をしているが、遺伝学用語についてはさまざまな分野が関連していることから、平成29年12月、委員会の下に「遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ」を立ち上げ、遺伝学用語のあり方について検討を重ねてきた。

今回のシンポジウムは公開シンポジウムとして「優性」「劣性」という2つの用語に絞って検討する。分科会、国語学・教育学の分野、マスメディア、患者関係者の方々を演者に招き、適切な用語に意見集約することを目的としている。

◆日本医学会定例評議員会

第86回日本医学会定例評議員会を平成31年2月22日（金）14:00～16:00, 日本医師会館小講堂にて開催予定。主な議題は1. 平成30年度年次報告, 2. 平成31年度事業計画, 3. 日本医学会新規加盟学会の件, 4. その他である。

編 集 後 記

昨年度私は大学から学外研究の機会を与えていただき、1年間欧州に滞在しました。デンマークとオランダの大学を訪問しましたが、それぞれの国で特に特徴的だったのは各大学が博士号を持つ研究者の輩出に力を入れていることでした。特にオランダでは博士号を持って大学を卒業する院生の数を国からの補助金に反映させる制度があるそうです。国家予算を使って大学をサポートし、博士の人材育成に力を入れているのです。ヨーロッパでは大手企業の役職に就く人材の多くが博士号を有しており、企業における研究者も博士号が基準であるという印象を強く受けました。

私自身は米国で博士号を取得しましたが、博士課程で研究を続けていた当時を振り返ると、アメリカでは大学はもちろん大手の企業では研究職に就こうと思えば博士号の取得は必須でした。企業での研究職を希望していても、博士号を持っていなければ面接さえしてもらえないような状況でした。ですので、アメリカでは企業での研究職に就くためには博士課程に行くしかありませんでした。この米国における状況は、現在でもさほど変わっていません。それと対照的に、日本では修士課程を卒業して企業の研究職に就くことが標準となっています。博士課程に進んで研究力をより高めることのメリットより

も、むしろ多くの大学院生は博士課程に行くと就職できないと考えているようです。このメンタリティーは企業側も同じではないでしょうか。つまり博士号を取らなくても、早めに職場で切磋琢磨をする場に身を置いた方が、より短期間でその人材が職場に必要な問題解決能力を身につけることができる。博士号を持って入ってきた新人よりも修士課程で職場に長くいる人材の方が実力が上と判断しているようにも思われます。もちろん博士号が研究にとって本質的なものかどうかとも明確ではありませんし、研究分野によって、企業での即戦力となる応用力がどのレベルかも変わってくるでしょう。また修士号で極めて優秀な研究者もいると思います。

激変するこの時代においては、新たな発見や切り口でイノベーションを起こすことができる、そういった研究者が研究機関だけでなく、企業でも求められると思います。研究発表や論文投稿をつうじて、“研究とは何か”という科学の本質を身に付けるだけでなく、企業に求められる問題発見能力や解決能力を企業と連携しながら見出していくことも、今後博士課程の研究・教育において必要なかもしれません。

藤田 聡

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.67, No.6

体 力 科 学 第 67 卷 第 6 号

平成 30 年 11 月 25 日 印 刷

平成 30 年 12 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

田 中 喜 代 次
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012
E-mail : jspfsm@asas-mail.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120
E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社